

4つのホットな支援サービス

子育て支援

高齢者支援

障がい者支援

働く女性支援(働き方改革)

心をつなぐ Vol.6

# 医療も介護も心はひとつ

相互連携で 人生100年時代を自分らしく

## 心をつなぐ介護



「未来をつくるkaigoカフェ」代表  
介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員  
ケアマネージャー  
高瀬 比左子  
「未来をつくるKaigoカフェ」主宰  
介護関係者のみならず多職種、他業種を交えた活動には、これまで延べ5000人以上が参加。

谷本：人生100年時代と言われる中、高齢者をどう過ごすかに注目が集まっています。医療、介護をどう利用していくべきか、日々現場で多くの高齢者に向き合われているお二人にお話を伺いました。

高瀬：私は以前0Lの仕事で

高瀬：人生100年時代と言われる中、高齢者をどう過ごすかに注目が集まっています。医療、介護をどう利用していくべきか、日々現場で多くの高齢者に向き合われているお二人にお話を伺いました。



内科・消化器内科  
医療法人社団悠翔会 理事長・診療部長  
在宅医  
佐々木 淳  
大規模なチーム体制を組み、医師の負担を減らしながら2000人の患者を24時間365日見守る在宅総合診療を展開している。

## 求められる在宅医療の役割

谷本：在宅生活を継続するためには医療と介護、それぞれどのような役割が必要ですか？

高瀬：私は「何もできない」と絶望しているご本人様と一緒に、その人がまだできることを見つけて出し、希望を持って毎日の生活をおくれるように、家族の皆さんも含め信頼関係を築くことがもなによりも大事だと考えています。

佐々木：まず、対話することが大切です。病気を治さないと私の人生は終わらなという方とお話していくと、自身が固定観念で縛られているということに気付いて、病気を共存する気持ちに変わります。そこで、これからどう生きるか、我々がどうサポートするかを一緒に考えていきます。

谷本：病気がだから諦めるのでは

高瀬：個々に合わせていると、仮面をかぶって接するようにならなくなるので、自然体の自分と接するようにしています。たとえば、自分の弱みを隠さないとケージには必要かもしれません。

お世話してあげている、お世話してもらっているという感じではなく、お互いにフラットな関係を持ち続けることが大事ですね。業務に追われていると忘れがちになるので、私はできるだけ外部の方々と語らう機会を大切にしています。

谷本：佐々木さんは在宅医療に携わる中で、人生に大きな影響を受けたことはありましたか？

佐々木：淳氏（以下、佐々木）これまで多くの場合、医師は病気を治療することで患者さん

幸せにしようという立場でした。病気が治らないのは不幸だという価値観が少なからずありました。しかし、在宅医療を通じて患者さんと関わるようになって、病気を治して幸せにする以外の医療の役割を患者さんに教えてもらいました。

健康は、健康であることが目的ではなく、望み通りの生活を送り、自分が人生の主人公として生きていくための手段なんです。というところは、身体に不具合があっても、医療機器などの力を借りて環境を調整すれば、目的は達成できますよ。

治療で患者さんを幸せにできないければ、環境調整という視点で患者さんをサポートする。生活が継続できるように足りないところを支援する。在宅の場合、治らない方が多いので、その人がどういう生活を送りたいのかという視点から、必要な医療を考えていく、在宅医療とは個々に合わせて作っていくものなんです。

谷本：「生きる」ということをサポートすることが大切なんですね。

佐々木：その中で私が意識していることは、心置きなく言いたいことを伝えてもらう関係を築くことです。患者さんを指導するとか、説明するとか、同意させるじゃなくて最終的には本人が歩きたい道をガイドとして横について行くという、そういうスタンスですね。

私の価値観を変えた患者さん  
佐々木：非常に印象深かったのは人工呼吸器を付けていたALS（筋萎縮性側索硬化症）で寝たきりのおばあちゃんです。普段は眼珠の動きで文字を入力してコミュニケーションしていました。食事はもちろん自分で食べられないので驚いたのですが、あるとき家族とホテルのビュッフェに行かれたのです。「食べたものがあつたら、お肉でもお魚でも口にに入れてもらおう」という言葉が、飲み込むという行為は分るのよ。飲み込むという行為は分るのよ。飲み込むという行為は分るのよ。

対談を終えて  
日本でも多くの人が医療・介護を受ける超高齢化社会を迎える中、1対多数のような機械的な冷たい対応をされるのではと懸念の声も聞かれます。しかし、現場では逆に1人の人に対して、沢山の人が関わり、手厚いケアがなされていることを実感しました。

年齢を重ねることは、必ずしも不安ではない。このような一人ひとりに向き合い、安心を提供できるような未来づくりに私も参加していきたいと思えました。

谷本：最近が高齢期の住まいはどう選ぶか  
谷本：最近が高齢期の住まいとして老人ホームを選ぶ方も増えていますが、そのあたりはどうお考えですか？

佐々木：色々な老人ホームで診察させてもらっています。多くの入居者が帰りたい帰りたいと言っている施設もあれば、みんなそれなりに生活を楽しんで友達をつくらせて、新しいコミュニティを形成して、お茶会やったり、飲み会やったりしているところもあります。在宅か老人ホームかではなく、「私はここで暮らしたい」と思えるかどうか

高瀬：おっしゃる通りで、老人ホームでは新しい友人ができるかどうか重要です。介護職のスタッフが積極的に関わる姿勢が大切です。入居したタイミングで合意する人と席を近くにするとか、ちょっとお話をしながらであげたりするとずっと仲良しになれると思います。

高瀬：おっしゃる通りで、老人ホームでは新しい友人ができるかどうか重要です。介護職のスタッフが積極的に関わる姿勢が大切です。入居したタイミングで合意する人と席を近くにするとか、ちょっとお話をしながらであげたりするとずっと仲良しになれると思います。

## 人生100年時代に頼れる住まいのパートナー

**初めての老人ホーム探し**  
**高齢者住みかえ支援センター**  
**ロイヤル入居相談室** 無料相談窓口  
 年中無休(年末年始を除く)  
 横浜 横濱 9階 新宿 新宿駅徒歩2分 大宮 大宮 10階 多摩 多摩センター4階  
 ☎0120-58-6186 ☎0120-87-6186 ☎0120-74-6186 ☎0120-64-6186

**信頼のサ高住管理** 取扱い：首都圏全域  
 相談実績7万組以上 サ高住専門のスタッフ23名  
**サービス付き 高齢者向け住宅入居募集センター**  
 サ高住運営会社様へ入居者募集や管理業務を承ります。 ☎0800-888-6186  
 担当：小川・星野  
 ▶入居者募集実績例：グランドマストシリーズ(積和グランドマスト)、スマイラス聖蹟桜ヶ丘(京王ウエルシアステージ)、ウエルシアオープンシリーズ(NTT都市開発)他多数

ご満足の頂ける高齢者の住み替え相談を親身になってサポートします。

しあわせのお手伝い 小さな親切心

**私達のこだわり**

- サポートする相談員は介護職経験者や有資格者なので、高齢者ご本人やご家族のお悩みに理解があります。
- 現地見学の際には、お車で送迎し、ご案内いたします。面倒な事前予約や場所の確認などすべてお任せください。福祉車両もご用意しています。
- 入居後も定期的にお伺いしてアフターフォローを心がけています。ご本人やご家族にも安心していただけるようサポートいたします。

サポートの流れ：ご相談/ホームのご提案 → 同行案内 → ご契約サポート → アフターフォロー

自分で手軽に探してみたい方はこちら **老人ホームお探しガイド** [お探しガイド](#) [検索](#)

すべての人にやさしい住まいを 健康企業宣言 創業44年 **ロイヤルハウジンググループ** www.royal-h.jp

グループ従業員430名、働く女性を支援します。 私たちと一緒に働きませんか？ 採用担当TEL.0120-25-1811

●首都圏の不動産売買・賃貸・リフォーム **ロイヤルハウジング株式会社** 東京ロイヤル株式会社 神奈川ロイヤル株式会社  
 本社/〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-3-17(新宿第1アオイビル9階) 03-3367-1811(代)

●別荘・リゾートマンション・土地 **ロイヤルリゾート株式会社** 熱海・伊東 軽井沢・箱根  
 本社/〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-3-17(新宿第1アオイビル9階) 03-5389-1111(代)

●高齢者住みかえ支援センター **ロイヤル入居相談室**  
 ●老人ホーム サービス付き高齢者向け住宅  
 相談 東京ロイヤル株式会社 神奈川ロイヤル株式会社  
 窓口 埼玉ロイヤル株式会社 045-277-2111(代)